

五右エ門

素性法師 見わたせば柳桜をこきませせて

行平

藤原清正 天津風ふけ井の浦にゐる田鶴の

さつき

僧正遍照 たらちねはかれとてしもうば玉の

俊寛

権中納言敦忠 伊せの海ちひろの浜にひろふとも

遠藤武者

藤原伸文 有明の月の光をまつ夜に

浜路

小野小町 わびぬれば身を浮草の根をたへて

傳兵へ

紀友則 夕ざればさほの河原の川かぜに

浦里

中納言朝忠 逢ことのたへてしなくば中々に

芝六

清原元輔 秋の野の萩の錦を故えに

樋口

中納言兼輔 みじか夜のふけ行まゝに高さこの

ときわ

源宗于朝臣 常磐なる松の緑も春来れば

累の霊

藤原敏行 秋来ぬと目にはさやかにみへね共

松王丸

大中臣能宣 千とせ迄かぎれる松もけふよりは

時次郎

三条院女蔵人 岩橋の夜のちぎりもたへぬべし

朝顔

源信明 恋しさは同じ心にあらず共

うとふ之霊

中務 秋風の吹につけてもとわぬかな

与次郎

猿丸太夫 おちこちのたつきもしらぬ山中に

鬼一

大中臣頼基 一ふしに千代をこめたる杖なれば

高師直

源順 水の面にてる月なしをわせふれば

清玄

業平朝臣 世の中にたへてさくらのなかりせば

佐代姫

柿本人丸 ほのくくと明石の浦の朝ぎりに

関兵エ

紀貫之 さくらちる木の下風は寒からで

高尾

源公忠朝臣 ゆきざらで山ぢくらしのほととぎす

実盛

平兼盛 暮てゆく秋のかたみにおくものは

長吉

源重之 風をいたみ岩うつ浪のおのれのみ

桜丸

凡河内躬恒 いくとも春の光りはわりなくに

梅王丸

藤原興風 誰をかもしる人にせん高さこの

すみ染

藤原元真 咲にけり我山里の外の花は

頼兼

藤原高光 かくばかり経がたく見ゆる世の中に

男之助

壬生忠峯 子の日する野べに小松のなかりせば

うとふ文次

山辺赤人 和歌の浦に潮みちくればかたをなみ

皆鶴姫

斉宮女御 琴の音に峯の松風かよふらし

さがみ

伊勢 三輪の山いかに待ちみんとしふとも

忠信

中納言家持 春の野にあさかきたそのつま恋ひに

もとめ

壬生忠見 やかず共草はもへなん春日のと

時頼入道

坂上是則 みよしのゝ山のしら雪つもるしらで